

ISBN 978-4-903875-23-1

Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL) Series 20

ユーラシア諸言語の多様性と動態－20号記念号－

ユーラシア言語研究コンソーシアム 2018年3月発行

Diversity and Dynamics of Eurasian Languages: The 20th Commemorative Volume

The Consortium for the Studies of Eurasian Languages

キルギス語の補助動詞 *kal-* の意味と本質
－アスペクトと共起制限をめぐる二つの疑問－
The meaning and essence of the Kyrgyz auxiliary verb *kal-*:
Two questions regarding its aspect and cooccurrence restrictions

大崎紀子・シャミシエワ ナズグリ

OHSAKI, Noriko and SHAMSHIEVA, Nazgul

キルギス語の補助動詞 *kal-*の意味と本質 —アスペクトと共起制限をめぐる二つの疑問から—¹

大崎 紀子
シャミシエワ ナズグリ

【キーワード】 キルギス語 補助動詞 アスペクト 意志動詞 共起制限

1. はじめに

ユーラシア大陸を横切る広大な地域に分布するチュルク諸語では、連続した複数の動詞で構成される複合的な動詞述語が発達している。複合的動詞述語を構成する動詞のうち、語彙的意味を失い文法化した動詞は「補助動詞」と呼ばれ、先行する動詞の語彙的意味にアスペクトや動作様態など文法的な意味を加える役割を担う。その種類は言語によって違いはあるが、15~30個の補助動詞が用いられているという (Ščerbak 1981: 135)。キルギス共和国を中心に話されるキルギス語でも、20個余りの補助動詞が用いられるが、本稿では、そのうち補助動詞 *kal-*を取り上げ、とくに以下の二つの疑問を提起しながら、補助動詞 *kal-*の本質について考える。なお、補助動詞 *kal-*に先行する語彙動詞 (V1) は、*-(I)p*の形式による継起副動詞形をとる場合と、*-a/y*による共起副動詞形をとる場合があるが、本稿では前者に補助動詞 *kal-*が後続した場合をもっぱら扱う。

まず一つ目の疑問は、補助動詞 *kal-*が「完了」を表す²とされていることについてである。動詞 *kal-*の語彙的な意味は「残る、留まる」だが、補助動詞として用いられる場合は「動作が最終的に完了したことを表す」(Kudaybergenov 1987: 230)

¹ 本研究は、科学研究補助金・基盤研究(B)「混成言語から見なおすユーラシアの諸言語—言語接触と言語形成の類型を探る—」(研究代表者: 藤代節)の支援を受けている。本研究を含め、言語研究を続ける上で故庄垣内正弘先生から賜った学恩の大きさは測り知れない。「杖を振り回して言いたい放題の我儘な年寄りになってやる」とよく冗談をおっしゃっていたが、我儘にも年寄りにもなる前に天界に旅立ってしまわれたことは残念でならない。「母語話者から単に情報をもらうのではなく、共同で研究できるようにしなければならぬ」と常々おっしゃっていた庄垣内先生のお考えを実現する一歩として、この論文を感謝の気持ちと共に捧げたい。なお、貴重かつ有用な助言をくださった査読者にも深謝する。

² ここでの「完了」とは、「動作の完成・完了 (completion)」を表し、テンス・アスペクトとしての perfect や perfective「完了」を表すものではない。

という:

- (1) *kuytuluk kil-gan-dig-i bat ele bil-in-ip kal-dī*
 陰謀 する-PST-NM-POSS:3 すぐ まさに 知る-PASS-SEQ STAY³-PST:3
 「彼の陰謀はすぐに知られてしまった」(Kudaybergenov 1987: 230)

「動作の完了」を表すことは、キルギス語と同じくチュルク語北西グループに属するカザフ語の補助動詞 *qal-*でも主要な機能とされており (Muhamedowa 2016: 107)、南東グループのウイグル語の *qal-*も「動作の永続的ないし一時的な結果」を表すとされ (Hahn 1991: 616)、また、南シベリアのハカス語の *xal-*や東シベリアのサハ語 *xaal-*も「完了」の補助動詞とされている (Anderson 2004: 116-119)。

しかし、(2) や (3) のようなキルギス語の用例では、「動作の完了」を表しているとは言い難く、むしろ「始動」を表している。これをどのように考えるか、というのが一つ目の疑問である。

- (2) *koluktu-su andan murun üy-gö jet-ip, kolomto-go*
 嫁-POSS.3 それ.ABL 前 家-DAT 着く-SEQ 暖炉-DAT
ot jag-ip, süt bišir-ip kal-a-t.
 火 焼く-SEQ ミルク 煮る-SEQ STAY-PRES-3
 「嫁は誰かより先に家に着いて、暖炉に火を入れてミルクを煮る(煮始める)」^[1]

- (3) *janj jil menen košo čettik bol-up, ata-m kuykala-p*
 新年 と 共に チェティック なる-SEQ 父-POSS:1SG 毛焼きする-SEQ
koy soy-up kal-dī.
 羊 殺す-SEQ STAY-PST:3
 「新年とともにチェティックになり、私の父は毛焼きして羊を潰すことになった(潰し始めた)」^[2]

二つ目の疑問は、補助動詞 *kal-*が一定の動詞とは結びつかないという共起制限に関する問題である。Tokubek uulu (2009: 208) では、補助動詞 *kal-*の「完了」の意味には言及せず「予期しない／突然の行為や変化を表す」として、次のような例を挙げ、アスペクト的意味よりもモダリティ的意味を中心に記述している：

- (4) a. *Aynura bügün ooru-p kal-dī.*
 PN 今日 病気になる-SEQ STAY-PST:3
 「アイヌーラは今日病気だ(突然に)」

³ *kal-*をはじめ一定の動詞が補助動詞として用いられるときは、本来の語彙的意味を失っており、ロスでは本来の語義を大文字で表記することにする。

- b. *Menin košuna-m-din uy-u öl-üp kal-dī.*
 私の 隣人-POSS:1SG-GEN 牛-POSS:3 死ぬ-SEQ STAY-PST:3
 「私の近所の人の牛が死んだ」(Tokubek uulu 2009: 208)

ところが補助動詞 *kal-*は、「完了」のようなアスペクトの意味とも、「予期しない／突然」というモダリティの意味とも、矛盾しないと思われる場合であっても、(5)に見るように、一定の語彙動詞とは結びつかない。これをどのように説明するかが、二つ目の疑問である。

- (5) a. *Ešim xan xan Tursun-du öltür-üp {*kal-dī / ket-ti}*
 PN PN-ACC 殺す-SEQ STAY-PST:3 LEAVE-PST:3
 「エシム汗がトゥルスン汗を殺した」
- b. *al but-u-n sındır-üp {*kal-dī / al-dī}*
 3SG 足-POSS:3-ACC 割る-SEQ STAY-PST:3 TAKE-PST:3
 「彼は足の骨を折った」

本稿では、2節で第一の疑問について、3節で第二の疑問について考察したのち、4節で補助動詞 *kal-*の意味と用法に関わる本質について考えたい。

2. 第一の疑問 —補助動詞 *kal-*が表すアスペクト—

一般的には「完了」を表すと言われる補助動詞 *kal-*は、前節(2)(3)の例で見たような「始動」を表す場合があるだけでなく、次の例に見るように、「反復(繰り返し)あるいは習慣の獲得」と解釈される行為を表す場合もある：

- (6) a. *öl-ö-t de-l-gen, bas-pa-gan bala-m*
 死ぬ-PRES-3 言う-PASS-VN.PST 踏む-NEG-VN.PST 子供-POSS:1SG
kiyin čurka-p kal-dī.
 後 走る-SEQ STAY-PST:3
 「死ぬと言われて、歩かなかった我が子が後に走るようになった」⁴
- b. *kiz-dar-i ata-ene-si-n alda-p kal-dī.*
 娘-PL-POSS:3 父-母-POSS:3-ACC 騙す-SEQ STAY-PST:3
 「(昨今では)娘たちが両親を騙すようになった」⁴

筆者らが補助動詞 *kal-*を伴う任意の動詞 92 個を取り上げて調査したところ⁵では、補助動詞 *kal-*が表す「完了」「始動」「反復、習慣の獲得」という三種類のア

⁴ 日本語の「ようになる」という表現でも、「ように」節の述語動詞は非意志動詞であることが多いが、意志動詞の場合は、複数の動作による「習慣の定着」として解釈される(安達 1977: 81)。

⁵ 調査は、アクマタリエフ(2017)から抽出した任意の動詞につき、補助動詞 *kal-*を伴う用例をインターネット検索によって探し、文脈を考慮に入れながら個々の例を検討する方法で行った。

スペクトの分布には、①意志動詞か非意志動詞かの区別と、②継続的 (durative) か瞬間的 (punctual) かという語彙アスペクトの区別という二つの基準が関わっていると考えられる。

2.1 意志動詞か非意志動詞かの区別

調査した 92 動詞の用例のうち、補助動詞 *kal*-が後続した場合に表されるアスペクトが「完了」ではなく、「始動」や「反復、習慣の獲得」を表す動詞には以下のようなものがある：

(7) 補助動詞 *kal*-との結びつきで「始動」や「反復、習慣の獲得」を表す動詞の例

〔他動詞〕 *soy*-「(羊などを)殺す／潰す」、*böl*-「分ける」、*bişir*-「煮る」、*aarçi*-「拭く」、*agüt*-「放つ」、*at*-「撃つ」、*boşot*-「ほどく」、*bulga*-「振る」、*aylandir*-「回す」、*kes*-「切る」、*čeč*-「解決する」、*azayt*-「減らす」、*ayda*-「(車を)運転する」、*ayttir*-「言わせる」、*alda*-「騙す」、*almaştir*-「替える」、*bak*-「育てる」、*ber*-「与える」、*bilgiz*-「知らせる」、*darıla*-「治療する」、*jetkir*-「届ける」、*jaz*-「書く」など。

〔自動詞〕 *čurka*-「走る」、*aylan*-「回る」、*bozdo*-「号泣する」、*burul*-「曲がる、向きを変える」、*uç*-「飛ぶ」、*abayla*-「用心する」、*arala*-「歩き回る」、*darılan*-「治療を受ける」、*oyno*-「遊ぶ」など。

この (7) に挙げた動詞に共通するのは、他動詞か自動詞に関わらず、すべて意志動詞であるという点である。ここで意志動詞を「動詞が表す動作や事態の実現が主体の意志によってコントロールできるもの」という意味的基準によって定義しておくとする⁶、主体の意志によって制御できない動作や事態を表す、非意志動詞には (8) に挙げるような動詞があり、それらはすべて、(9) の例に見るように、「完了」のアスペクトを表す。

(8) 非意志動詞の例(補助動詞 *kal*-が後続したときには「完了」を表すもの)

〔形態論的に単純な自動詞〕 *bol*-「なる」、*adaş*-「迷う」、*azay*-「減る」、*ayık*-「治る」、*ak*-「流れる」、*art*-「余る」、*boşo*-「空になる」、*almaş*-「変わる」、*arzanda*-「安くなる」など。

〔他動詞の受動形〕 *agil*-「流れる」、*ayril*-「破れる」、*aldan*-「騙される」、*asil*-「引っかかる」、*atıl*-「撃たれる」、*bagil*-「育てられる」、*baştal*-「始まる」、*beril*-「与えられる」、*bilin*-「知られる」、*jabil*-

⁶ 意志動詞かどうかの認定は必ずしも容易ではない。日本語では、鈴木(1982:115)が「さそいかける形と命令する形を本来の意味でもちいることのできる動詞」と定義し、これをキルギス語にも当てはめることができそうだが、例えば *bozdo*-「号泣する」に対し *bozdo-ylu*「(私たちは)号泣しよう」が成立するかどうか、判断が難しいものもある。また、他動詞は基本的に意志動詞だと考えられるが、例えば *jogot*-「無くす、失う」は「子供／親を亡くす」のような無意志的な事態にも用いられる。このほか、「～してみる」という「試行」を表す補助動詞 *kör*-「見る」が後続できるかどうか、意志動詞かどうかの判断に有用だと考えられる。ここでは、このような形態的・統語的基準を勘案しながら、意味的な基準によって意志動詞かどうかを判断しておく。

「閉まる」、*jazil*-「書かれる」など。

[相互形] *aralaš*-「混じり合う」、*jabiš*-「くつつく」など。

- (9) a. *Köp-tör-dün işenim-i azay-ïp kal-dï.*
 大勢-PL-GEN 信頼感-POSS:3 減る-SEQ STAY-PST:3
 「大勢の人の信頼感が低下してしまった」
- b. *Anin at-i Kirgizstan-din tarih barak-tar-ï-nda*
 3SG:GEN 名前-POSS:3 キルギスタン-GEN 歴史 ページ-PL-POSS:3-LOC
jaz-ïl-p kal-dï.
 書く-PASS-SEQ STAY-PST:3
 「彼の名前がキルギスタンの歴史のページに記された」
- c. *ošo-ndon ulam bul process-ke sayasiy kizikçilik*
 それ-ABL さらに この プロセス-DAT 政治的な 関心
arala-š-ïp kal-dï.
 混じる-RECIP-SEQ STAY-PST:3
 「それ以来さらにこのプロセスに政治的な関心が混じり合ってしまった」^[4]

このように、形態論的に単純な自動詞 (9a)、他動詞の受動形 (9b)、相互形 (9c) のいずれにおいても、非意志動詞と補助動詞 *kal*-の結びつきが「完了」を表す一方、補助動詞 *kal*-が後続した場合に「完了」以外のアスペクトを表す動詞が (7) に挙げたような意志動詞に限られることは、意志動詞か非意志動詞かの区別が補助動詞 *kal*-が表すアスペクトと直接関わっているということを示している。

ところで、補助動詞 *kal*-は、意志動詞よりも非意志動詞と結びつくことが多い。次に示すのは、“*V-(I)p kal-dï*” (V-SEQ STAY-PST:3) という 2 動詞の連続を Google 検索にかけた結果であるが、補助動詞 *kal*-は非意志動詞との組み合わせに明らかに偏っていることが分かる。

(10) “*V-(I)p kal-dï*” (V-SEQ STAY-PST:3) の Google 検索 (2017 年 3 月 10 日実施) の結果

[非意志動詞]		[意志動詞]	
<i>azay</i> - 「減る」	137 件	<i>azayt</i> - 「減らす」	1 件
<i>ooru</i> - 「病気になる」	86 件	<i>oorut</i> - 「病気にする」	2 件
<i>okšo</i> - 「似る」	101 件	<i>okšoštur</i> - 「似せる」	1 件
<i>jazil</i> - 「書かれる」	119 件	<i>jaz</i> - 「書く」	58 件
<i>bilin</i> - 「知られる」	136 件	<i>bil</i> - 「知る」	89 件

先行研究において、補助動詞 *kal*-が「完了」を表すと広く記述されてきた理由には、非意志動詞との組み合わせで用いられることが圧倒的に多いという補助動詞 *kal*-の特性が深く関わっていると考えられる。

2.2 意志動詞に補助動詞 *kal-* が後続した場合: 語彙アスペクトによる区別

意志動詞に補助動詞 *kal-* が後続した場合には、(6)に挙げた *čurka-*「走る」、*alda-*「騙す」の例のように、「反復(繰り返し)や習慣の獲得」の行為を表す場合が多い。以下にも用例を追加しておく。

- (11) a. *Ata-m mašina ayda-p kal-dī.*
 父-POSS:1SG 車 運転する-SEQ STAY-PST:3
 「(運転できなかった)父が車を運転するようになった」
- b. *Kirgizstan-da baar-ī-n èl čėč-ip kal-dī.*
 キルギスタン-LOC 全て-POSS:3-ACC 民 解決する-SEQ STAY-PST:3
 「キルギスタンではすべてを民が決めるようになった」^[5]

このほか、*azayt-*「減らす」、*aylandir-*「回す」、*almaštir-*「替える」、*bak-*「育てる」、*bilgiz-*「知らせる」、*darıla-*「治療する」、*jaz-*「書く」、*jetkir-*「届ける」(以上他動詞)、*abayla-*「用心する」、*darılan-*「治療を受ける」、*oyno-*「遊ぶ」(以上自動詞)などに、補助動詞 *kal-* が後続した場合に「反復、習慣の獲得」を表す用例がある。注意しておかなければならないのは、以下に述べる継続動詞か瞬間動詞かという語彙アスペクトの区別には関係なく、意志動詞全般に補助動詞 *kal-* との結びつきにおいて観察されるアスペクトだという点である。

これに対し、(2) *bīšir-*「煮る」や(3) *soy-*「(羊などを)殺す/潰す」のように補助動詞 *kal-* との結びつきで「始動」のアスペクトを表す動詞には、意志動詞で、かつ継続的 (durative) な語彙アスペクトを持つという共通点が見られる。

- (12) a. *Oroz kel-ip menin kol-u but-um-du*
 PN 来る-SEQ 1SG:GEN 手-POSS:3 足-POSS:1SG-ACC
bošot-up kal-dī.
 ほどく-SEQ STAY-PST:3
 「オロズが来て、私の手足をほどき始めた」
- b. *Koņšu jaš bürküt anin asman-i-n èėle-y*
 近くの 若い 鷲 3SG:GEN 空-POSS:3-ACC 占領する-SIM
uč-up kal-dī.
 飛ぶ-SEQ STAY-PST:3
 「近くの若い鷲が彼(年寄りの鷲)の空を占領するように飛び始めた」^[6]

このとき、(12a) の *bošot-*「ほどく」は *telic* (限界的) な動詞であるのに対し、(12b) の *uč-*「飛ぶ」は *atelic* (非限界的) であり、どちらも「始動」を表すことから、*telic* か *atelic* かという語彙アスペクトはここでは関係がないことが分かる。補助動詞 *kal-* との組み合わせが「始動」のアスペクトを表す動詞には、ほか

に *böl-*「分ける」、*aarči-*「拭く」、*agit-*「放つ」、*bulga-*「振る」(以上他動詞)、*aylan-*「回る」、*bozdo-*「号泣する」、*burul-*「曲がる、向きを変える」(以上自動詞)などがある。

しかしながら、意志動詞であっても瞬間的 (punctual) な語彙アスペクトを持つ動詞は、補助動詞 *kal-*との結合で 1 回きりの行為の「完了」を表す場合がある。

- (13) a. *Il'yas Suranbek-ti čaa-p kal-dī da, èköö*
 PN PN-ACC 叩く-SEQ STAY-PST:3 も 二人
mušta-š-a ket-iš-ti.
 殴る-RECIP-SIM LEAVE-RECIP-PST:3
 「イリアスはスランベクを叩いて、二人は殴り合いの喧嘩をした」^[7]
- b. *angeme-biz-din ušul ĵer-i-ne kel-gen-de*
 話-POSS:1PL-GEN この 所-POSS:3-DAT 来る-VN.PST-LOC
bir aydooču tartip-ti buz-up kal-dī
 1 運転手 規則-ACC 壊す-SEQ STAY-PST:3
 「我々の話がここに来たところで、一人の運転手が交通規則を破ってしまった」^[8]

このような動詞には、ほかに *aĵirat-*「離す」、*ač-*「(口を) 開く」、*ber-*「(知らせを) 与える」、*bil-*「知る」(以上他動詞)、*bekin-*「隠れる」(自動詞)がある。ここでも、(13a) *čap-*「叩く」が *atelic* な動詞であるのに対して、(13b) の *buz-*「壊す」は *telic* な動詞であることから分かるように、*telic* か *atelic* かという語彙アスペクトは関係がない。

2.3 例外的なアスペクト

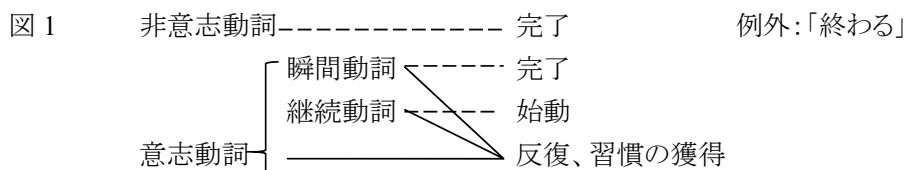
ayakta-「終える、終わる」とその受動形 *ayaktal-*「終えられる」、及び *büt-*「終わる」においては、補助動詞 *kal-*が後続すると、「完了」ではなく、「もうすぐ終わる、ほぼ終わる」という「(完了への) 接近」を表す。

- (14) a. *köpürö-nün kuruluš iš-ter-i-nin 80%-i ayakta-p*
 橋-GEN 建設 作業-PL-POSS:3-GEN 80%-POSS:3 終わる-SEQ
kal-dī.
 STAY-PST:3
 「橋の建設作業の 80%が(ほぼ)終わった」^[9]
- b. *anin üy-bülö-sü üčün kur-ul-up ĵat-kan üy*
 3SG:GEN 家族-POSS:3 ために 建てる-PASS-SEQ LIE-VN.PST 家
büt-üp kal-dī.
 終わる-SEQ STAY-PST:3
 「彼の家族のために建てられている家が(ほぼ建て)終わった」

補助動詞 *kal-*が「終わる」という意味を持つ動詞と結びついたときに「(完了への) 接近」という例外的なアスペクトを表すことは、カザフ語でもかねてより指摘されている (Mamanov 1966[2007]: 242, Muhamedowa 2016: 108)。

2. 4 補助動詞 *kal-*が表すアスペクト

本節で述べた内容は、下図のようにまとめることができる。



3. 第二の疑問 —一定の動詞に共起制限がある理由—

第 1 節 (5) の例で見たように、補助動詞 *kal-*は *öltür-*「殺す」、*sindir-*「割る、折る」など一定の動詞とは結びつかない。筆者らがアクマタリエワ (2017) に掲載されているキルギス語の動詞 2,743 個を調査したところ⁷、補助動詞 *kal-*と結びつかない動詞が 132 個 (調査動詞の約 4.8%) が抽出された。これには他動詞が圧倒的に多く、123 個を占めるが、自動詞も 9 個含まれている。

隣接するカザフ語でも補助動詞 *qal-*が *öltir-*「殺す」、*ber-*「与える」、*al-*「取る」と結びつかないことが指摘されており、それは補助動詞 *qal-*が *telic* な動詞と結びつかないからだと説明されている (Muhamedowa 2016: 108)。しかし、キルギス語では *ber-*「与える」、*al-*「取る」が補助動詞 *kal-*と結びつく例は少なからず見られるし、*telic* な動詞でも補助動詞 *kal-*と共起する例は多く見られる。

さらに言えば、*telic* か *atelic* かという語彙アスペクトだけでなく、状态的 (*stative*) か動的 (*dynamic*) か、継続的 (*durative*) か瞬間的 (*punctual*) かといった語彙アスペクトも、表 1 に示すように、補助動詞 *kal-*との結びつきの可否には関係がない。

⁷ 調査では、Google 検索により、当該動詞に *kal-di* (PST.3), *kal-gan* (PST.3), *kal-a-t* (PRES-3), *kal-sa* (COND.3) の 4 形式が直接後続する用例の有無を検索した上で、母語話者である筆者 (シャミシエワ) が補助動詞 *kal-*との結びつきの可否の判断を行った。検索結果では 1 件も用例がヒットしない場合でも、補助動詞 *kal-*と結びついても不自然ではないと判断される場合は、母語話者としての判断を優先した。

表1 語彙動詞の語彙的アスペクトタイプ⁸と補助動詞 *kal-*との結びつき

語彙的アスペクトタイプ	用例あり	用例なし
State [+s, +d, -t]	<i>kaygır-</i> 「悲しむ」、 <i>okšo-</i> 「似る」	<i>azaptan-</i> 「苦しむ」
Activity [-s, +d, -t]	<i>ırda-</i> 「歌う」、 <i>kara-</i> 「見る」	<i>čömi-</i> 「潜水する」
Accomplishment [-s, +d, +t]	<i>soy-</i> 「(羊などを)殺す」	<i>talkala-</i> 「砕く」、 <i>erit-</i> 「溶かす」
Semelfactive [-s, -d, -t]	<i>čap-</i> 「叩く」	
Achievement [-s, -d, +t]	<i>jet-</i> 「達する」、 <i>öl-</i> 「死ぬ」	<i>öltür-</i> 「殺す」、 <i>sindir-</i> 「割る」

ただ、*atelic* ([-t]) の動詞 (表1における *State*, *Activity*, *Semelfactive*) は、*telic* ([+t]) と比較して補助動詞 *kal-*と共起する用例が明らかに少ないので、*atelic* な動詞とは結びつきにくいという点は指摘できるかも知れない。

そこで、補助動詞 *kal-*と一定の語彙動詞が結びつかないのはなぜかを考えた場合、現時点では以下の四つの要因を指摘したい：

- ① 動作主体や動作対象の形状や状態に回復不能な変化を及ぼす行為
- ② 語用論的に「反復、習慣」の行為としての解釈が不自然になる行為
- ③ 他動詞の使役形
- ④ 意志動詞である自動詞の使役形

まず、要因①については、*öltür-*「殺す」、*öltürül-*「殺される」、*sindir-*「割る、折る」、*kıyrat-*「破壊する」、*talkala-*「砕く」、*erit-*「溶かす」など、動作主体や動作対象の形状や状態に回復不能な変化を及ぼす行為を表す意志動詞は補助動詞 *kal-*と結びつかないのに対して、動作対象の形状には変化を及ぼさない *karma-*「捕まえる」、*toktot-*「止める」などの意志動詞は、生産的に補助動詞 *kal-*と結びつく。このことから、*kal-*の「残る、留まる」という本来の語彙的意味が影響し、変化事態が維持不能であるという点で、「回復不能な変化」と意味的な衝突を起こすのではないかと考えられる。

次に、要因②は、*öltür-*「殺す」が補助動詞 *kal-*と結びつかないのに対して、*soy-*「(羊などを)殺す/潰す」は補助動詞 *kal-*と共起することができる。これは、意志動詞に補助動詞 *kal-*が後続すると「反復、習慣の獲得」の解釈を受けるべきところ (2.2)、「(習慣的に)殺す」ことが語用論的にその解釈が否定される場合があるからだと考える。すなわち、「人を殺す」のは反復行為として捉えられ難い

⁸ 語彙アスペクトによる分類は、Vendler (1967) 及び Smith (1991) による。なお、表1において、[+s] は状態動詞、[-s] は動態動詞、[+d] は継続動詞、[-d] は瞬間動詞、[+t] は限界動詞、[-t] は非限界動詞を表す。

が、「羊を殺す/潰す」ことは日常の反復行為として理解され、補助動詞 *kal-*とも問題なく結びつくのだと考えられる。

そして要因③と④に関わるのは、「二重の意志性」である。調査した 2,743 個の動詞のうち、他動詞の使役形は 53 個であったが、このうち、生産的に補助動詞 *kal-*と結びつくのは、*bastir-*「踏ませる、印刷させる」、*bilgiz-/bildir-*「知らせる」、*jazdir-*「書かせる」、*körsöt-*「見せる」、*okut-*「読ませる」の 6 動詞に限られている。ごくまれに補助動詞 *kal-*との用例が見つかるものが 8 動詞、1 例も見当たらない動詞が 53 動詞中 39 個を占めている。他方、自動詞の使役形は 170 個あったが、そのうち補助動詞 *kal-*と結びつくものは 141 動詞に上る。しかし、そのうちの「意志動詞である自動詞の使役形」(64 個)は、補助動詞 *kal-*との結びつきが決して生産的とは言えず、*jatkiz-/jatkir-*「寝かせる」や *ayttir-*「言わせる」のような頻出動詞でも、ごくまれに 1~2 例の用例が見つかる程度である。これは、動詞が持つ「意志性」そのものは補助動詞 *kal-*との共起を妨げはしないものの、2.1 の (10) で見たように、非意志動詞とより結びつきやすいという補助動詞 *kal-*の特性から、他動詞であれ自動詞であれ、意志動詞の使役形における「二重の意志性」が、補助動詞 *kal-*との共起の可否に影響を及ぼすのではないかと考えられる。

以下の表 2 に示すのは、補助動詞 *kal-*と結びつかない 132 動詞の分析結果である。ここで重要な点として、上に挙げた四つの要因のどれか一つによって補助動詞 *kal-*との共起の可否が決まるというよりは、複合的な要因によって決まる、言い換えれば、補助動詞 *kal-*との共起を妨げる要因が多いものほど共起が難しくなる、という程度の差がある現象として捉えるべきだという点である。

表 2 補助動詞 *kal-*と結びつかない動詞

	動詞	意味	意志性	①	②	③	④
1.	<i>jadir-</i>	1.薪割りをさせる; 2.切らす、殺す	+	✓	✓	✓	
2.	<i>aıraştır-</i>	分かれさせる、離婚させる	+	✓	✓		✓
3.	<i>jaypa-</i>	(人生を)閉める、死ぬ	+	✓	✓		
4.	<i>jirt-</i>	引き裂く、引きちぎる、破る	+	✓	✓		
5.	<i>irit-</i>	腐らせる、腐敗させる	+	✓	✓		
6.	<i>karit-</i>	衰えさせる	+	✓	✓		
7.	<i>kirdet-</i>	汚す	+	✓	✓		
8.	<i>omur-</i>	1.壊す; 2.中味を掘り出す、根こそぎにする	+	✓	✓		
9.	<i>öltür-</i>	殺す、殺害する	+	✓	✓		
10.	<i>sindir-</i>	1.折る、壊す; 2.破産する	+	✓	✓		
11.	<i>tumçuktur-</i>	窒息させる、絞殺する	+	✓	✓		

	動詞	意味	意志性	①	②	③	④
12.	<i>urat-</i>	倒す、壊す	+	✓	✓		
13.	<i>uulandir-</i>	中毒させる	+	✓	✓		
14.	<i>šili-</i>	切り落とす、切り取る	+	✓	✓		
15.	<i>kıyrat-</i>	破壊する、壊す	+	✓	✓		
16.	<i>agizdir-</i>	流させる	+	✓		✓	
17.	<i>böldür-</i>	分けさせる	+	✓		✓	
18.	<i>jutkuz-</i>	飲み込ませる	+	✓		✓	
19.	<i>jutkur-</i>	飲み込ませる	+	✓		✓	
20.	<i>kestir-</i>	切らせる	+	✓		✓	
21.	<i>sirdat-</i>	染める、染めさす	+	✓		✓	
22.	<i>čaynat-</i>	嘔ませる	+	✓		✓	
23.	<i>üylöndür-</i>	結婚させる	+		✓		✓
24.	<i>uruštur-</i>	喧嘩させる(③)、叱らせる(④)	+			✓	✓
25.	<i>agiz-</i>	流す	+	✓			
26.	<i>ayrilt-</i>	引き裂く、分ける	+	✓			
27.	<i>jik-</i>	1. 倒す; 2. 勝つ	+	✓			
28.	<i>teš-</i>	貫く、突き刺す、穴をあける	+	✓			
29.	<i>til-</i>	切る、スーッと真直ぐに切る	+	✓			
30.	<i>tištegile-</i>	(何度も) 嘔む	+	✓			
31.	<i>togolo-</i>	丸める	+	✓			
32.	<i>tomur-</i>	根こそぎにする、中味を掘り出す	+	✓			
33.	<i>tügöt-</i>	終わらせる、使い切る	+	✓			
34.	<i>učta-</i>	1. 削る、尖らす; 2. 継ぎ足す	+	✓			
35.	<i>üzgölö-</i>	もぎ取る、破る	+	✓			
36.	<i>čila-</i>	混ぜる、水で混ぜる	+	✓			
37.	<i>ěškile-</i>	撚る、編む	+	✓			
38.	<i>talkala-</i>	砕く	+	✓			
39.	<i>erit-</i>	溶かす	+	✓			
40.	<i>dimiktir-</i>	閉める、閉じる、窒息させる	+		✓		
41.	<i>žandandir-</i>	回復させる、生かす、甦生させる	+		✓		
42.	<i>žandant-</i>	回復させる、生かす、甦生させる	+		✓		
43.	<i>žemir-</i>	嘔む、かじる	+		✓		
44.	<i>abaylat-</i>	注意させる	+			✓	
45.	<i>aykaštir-</i>	結びつける、接続する、調和する	+			✓	

	動詞	意味	意志性	①	②	③	④
46.	<i>aldat-</i>	偽れる、騙される	+			✓	
47.	<i>ayaktat-</i>	終える、完成させる	+			✓	
48.	<i>berdir-</i>	与えさせる、与える	+			✓	
49.	<i>boljoštur-</i>	仮定させる、推測させる	+			✓	
50.	<i>jadirat-</i>	楽しませる	+			✓	
51.	<i>jatkiřt-</i>	寝かす、横にさせる	+			✓	
52.	<i>jeřdir-</i>	勝たす、勝利させる	+			✓	
53.	<i>kaptir-</i>	嘔ませる	+			✓	
54.	<i>kötört-</i>	持たせる、持ち上げさせる	+			✓	
55.	<i>makuldat-</i>	説得させる	+			✓	
56.	<i>oodarištir-</i>	裏返す、ひっくり返す	+			✓	
57.	<i>saktat-</i>	守らせる、保存させる	+			✓	
58.	<i>taanit-</i>	知らせる、紹介する	+			✓	
59.	<i>tandat-</i>	選ばせる	+			✓	
60.	<i>taptir-</i>	見つけさせる	+			✓	
61.	<i>tatit-</i>	味見させる	+			✓	
62.	<i>teštir-</i>	貫く、突き刺す、穴をあける	+			✓	
63.	<i>tinkiz-</i>	捜査させる、くまなく探させる	+			✓	
64.	<i>tinttir-</i>	捜査させる、くまなく探させる	+			✓	
65.	<i>tölöt-</i>	支払わせる	+			✓	
66.	<i>töröt-</i>	産ませる	+			✓	
67.	<i>tuyguz-</i>	気づかせる、感じさせる	+			✓	
68.	<i>tüzöt-</i>	正す	+			✓	
69.	<i>uzarttir-</i>	長くする、伸ばす	+			✓	
70.	<i>ulat-</i>	続けさせる、繋がる、接続させる	+			✓	
71.	<i>uttur-</i>	勝たす、負ける	+			✓	
72.	<i>čektir-</i>	吸わせる	+			✓	
73.	<i>čoydur-</i>	伸ばさせる	+			✓	
74.	<i>aynit-</i>	あきらめさせる、思い直させる	+				✓
75.	<i>alasaldir-</i>	ひっくり返す、でんぐり返しをさせる	+				✓
76.	<i>řapirayt-</i>	低める、下げる	+				✓
77.	<i>řuktur-</i>	1. 粘着させる、くっつける; 2. 感染する	+				✓
78.	<i>ičindir-</i>	養う、育てる	+				✓
79.	<i>ičint-</i>	飲ませる、育てる	+				✓

	動詞	意味	意志性	①	②	③	④
80.	<i>kalkit-</i>	浮かす、浮かべる	+				✓
81.	<i>kapalant-</i>	悲しませる、悩ます	+				✓
82.	<i>keyit-</i>	悩ませる、心配させる	+				✓
83.	<i>keliştir-</i>	1.合わせる; 2.上手くできる、上手くやる	+				✓
84.	<i>ornoştur-</i>	1.組み立てる; 2.場所を与える; 3. 就職させる;	+				✓
85.	<i>sagint-</i>	寂しがらせる、懐かしがらせる	+				✓
86.	<i>taarint-</i>	怒らす、怒らせる	+				✓
87.	<i>titiret-</i>	震わせる、振動させる	+				✓
88.	<i>tünöt-</i>	泊まらせる	+				✓
89.	<i>uktat-</i>	寝かす	+				✓
90.	<i>èñset-</i>	欲しがらせる	+				✓
91.	<i>èttendir-</i>	食べさせる、太らせる	+				✓
92.	<i>azapta-</i>	苦しめる、苦勞させる	+				
93.	<i>boltur-</i>	実現させる、成立させる	+				
94.	<i>jabirkat-</i>	気に障る、怒らす、苦しませる	+				
95.	<i>jarakta-</i>	備える、備え付ける	+				
96.	<i>jentekte-</i>	新生児の祝いをする、祝う	+				
97.	<i>jirgat-</i>	楽しませる	+				
98.	<i>içkele-</i>	飲む	+				
99.	<i>kabiş-</i>	喧嘩する	+				
100.	<i>karşila-</i>	交差させる	+				
101.	<i>kiçireyt-</i>	減らす、小さくする	+				
102.	<i>mizildet-</i>	滑らかにする、綺麗にする	+				
103.	<i>mikta-</i>	1. 強める、固める; 2. 徹底する	+				
104.	<i>naçarlat-</i>	弱くする、悪くする	+				
105.	<i>oz-</i>	追い越す、追い抜く	+				
106.	<i>öydölöt-</i>	高める、進める、あげる	+				
107.	<i>sotto-</i>	裁判する	+				
108.	<i>sögüş-</i>	口喧嘩する	+				
109.	<i>sürgülö-</i>	拭く、削る、こすり取る	+				
110.	<i>sızdat-</i>	1.痛ませる; 2.苦しませる、悲しませる	+				
111.	<i>tabişmakta-</i>	謎めいて話す	+				
112.	<i>tazart-</i>	片付ける、磨く	+				

	動詞	意味	意志性	①	②	③	④
113.	<i>talit-</i>	うんざりする、疲れさせる	+				
114.	<i>tašuula-</i>	運ぶ、移す	+				
115.	<i>tebele-</i>	踏む、踏みつける	+				
116.	<i>tomolo-</i>	転がす	+				
117.	<i>toŋdur-</i>	凍らす	+				
118.	<i>čapčila-</i>	(何度も) 掴む	+				
119.	<i>čočut-</i>	脅す、びつくりさせる	+				
120.	<i>čömü-</i>	1. 潜水する、沈む; 2. 没頭する	+				
121.	<i>čimčila-</i>	つねる、つまむ	+				
122.	<i>šamaldat-</i>	風通しをよくする	+				
123.	<i>izala-</i>	怒らせる、批判する	+				
124.	<i>batir-</i>	沈める	+				
125.	<i>öltürül-</i>	殺される	-	✓	✓		
126.	<i>örttöl-</i>	焼かれる、放火される	-	✓	✓		
127.	<i>örttön-</i>	燃える、発火する	-	✓	✓		
128.	<i>jit-</i>	居なくなる、無くなる、消える	-	✓			
129.	<i>ašin-</i>	超える、余る	-				
130.	<i>mončokto-</i>	(汗などが) 落ちる	-				
131.	<i>örčü-</i>	発展する、増える	-				
132.	<i>taygalan-</i>	滑る	-				

4. 補助動詞 *kal-* の意味と本質

ここで、補助動詞 *kal-* の本質として、「変化の結果に重点を置き、かつ非意志的な、変化する状態の持続を要件とする」ということを指摘したい。

Johanson (2004: 187) によれば、チュルク語の *kal-* (*qal-*) 「残る、留まる」は、「ある状態に入る」という変化の局面を表す場合と、「その(変化した)状態にある」という変化後の局面を表す場合があり、*-(l)p* による副動詞形に後続する場合は、前者を強調するものだという。キルギス語の補助動詞 *kal-* も、「予期しない/突然の行為や変化を表す」(Tokubek uulu, 2009: 208) とされ、「変化を表す」ことが重要な要素となっている。第2節で見たように、補助動詞 *kal-* が非意志動詞に後続した場合は「完了」を表し、意志動詞に後続した場合は基本的に「反復、習慣の獲得」を表すことは、Johanson (2004) の言葉を借りれば、非意志動詞との組み合わせでは、補助動詞 *kal-* は「変化後の局面」、すなわち「V1 が表す動作

という変化後の状態に留まる」ことを表し、また、意志動詞との組み合わせでは、「変化の局面」、すなわち「V1 が表す動作が行われる状態に入る」ことを表すことになる。意志動詞である V1 の動作を複数回の動作として捉えれば「反復、習慣の獲得」となり、一回きりの動作として捉えれば、瞬間動詞では「完了」を、継続動詞では「始動」を表すのも、「その動作が行われる状態に入る」という「変化の局面」を表しているからだと理解できる。

では、なぜ非意志動詞との組み合わせが「変化後の局面」となり、意志動詞とでは「変化の局面」を表すのかは、補助動詞 *kal-* が「変化の結果（のみ）に重点を置く」と考えることによって説明できる。つまり、補助動詞 *kal-* の関心は結果のみに集中するので、非意志動詞であれば動作が実現し完了したものと捉えられ、意志動詞ではそこに動作主体の意志や制御性が介在するため動作の完了までは常に確定できず、「その動作が行われる状態に入る」ことを表すにとどまる。ちなみに、補助動詞 *kal-* が変化の過程に関心を置かず、結果だけに重点を置くことは、それが話者にとって「突然の／予期しない」変化を表す要因と見ることもできる。

そしてさらに、「非意志的な、変化結果や事態の持続」も、補助動詞 *kal-* にとって重要な要素だということは、第 3 節で見た共起制限から引き出すことができる。意志動詞との組み合わせでは「変化の局面」を表すが、そこに留まること、すなわち変換事態の維持が要件となることは、*öltür-* 「殺す」など動作主体や対象の形状に回復不能な変化を及ぼす意志動詞と共起しないことから指摘したところである。さらに、その「持続」が非意志的なものであることが補助動詞 *kal-* の重要な特徴であり、意志動詞との結びつきを忌避する要因となっていると考えられる。

5. 結語

本稿では、キルギス語の補助動詞 *kal-* が従来「完了」の補助動詞とされてきたのに対して、「反復、習慣の獲得」や「始動」のアスペクトなど「完了」以外のアスペクトを表す場合があることを指摘し、それには意志動詞・非意志動詞の区別と、継続的か瞬間的かという語彙的アスペクトが関わっていることを示した。このことから、補助動詞 *kal-* が「変化の結果のみに重点を置く」特性を持つことを述べた。さらに、補助動詞 *kal-* がどの動詞とも結びつくのではなく、一定の共起制限がかかることを指摘して、その要因を探った。その検討結果は 3 節の表 2 に示したが、補助動詞 *kal-* が後続できない動詞のうちの 4 分の 3 に関わる要因を指摘できたにとどまり、4 分の 1 の動詞については、理由が不明なまま残った。しかし、少なくとも補助動詞 *kal-* の共起制限に動詞の「意志

性」が深く関わっていることと、「変換事態の維持」の可否が関わっていることを確認できたと考えている。

本稿で示した意志動詞・非意志動詞の区別は、日本語についてはかねてから文法現象を説明する重要なカテゴリーとして指摘されてきたが、チュルク諸語においてはほとんど注目されていなかった。補助動詞 *kal-* のふるまいが、意志動詞か否かの区別、及び意志性の程度に関わっているという事実は、今後の研究においても重要な意味を持つと考えている。

以上

略号一覧

ABL 奪格 ACC 対格 DAT 与格 GEN 属格 LOC 位格 NEG 否定 NM 名詞化接辞 PASS 受動接辞 PL 複数 PN 固有名詞 POSS 所有接辞 PRES 現在 PST 過去 RECIP 相互・共同接辞 SEQ 継起副動詞 SIM 共起副動詞 VN 形動詞

用例出典一覧

- [1] Imanbek kızı, Zavida. (Apr. 19, 2011) *jomoktor toptomu*. <http://muras.turmush.kg/unews/un_post:2649>
- [2] Zhazira. (Sep. 26, 2012) <<https://www.super.kg/superstan/index.php?showtopic=52712&st=20>>
- [3] Čokoeva, Dinara. <<http://www.lady.kg/node/189?page=1>>
- [4] Abdinabieva, Sapargül. (Mar. 29, 2016) <http://www.bbc.com/kyrgyz/kyrgyzstan/2016/03/160329_iv_rita_karasartova>
- [5] Gezitter.org. (Sep. 21, 2016) <http://www.gezitter.org/prezident_2017/53616>
- [6] Sarmanbetov, Aydarbek. *Kiraan*. <<http://www.literatura.kg/articles/?aid=201>>
- [7] Savay, Xamid (July 21, 2012) *Beyšenbektin beš kızı*. <<http://lib.kat.kg/?p=856>>
- [8] *Super Info. Turmuš*. No.336 (Apr. 16, 2009) <<https://www.super.kg/mobile/article/show/1717>>
- [9] Kabarlar.kg (July 30, 2015) <<http://kabarlar.org/news/in-region/54736>>

参考文献

- Anderson, Gregory D. S. (2004). *Auxiliary Verb Constructions in Altai Sayan Turkic*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Hahn, Reinhard F. (1991). *Spoken Uyghur*. Seattle: University of Washington Press.
- Johanson, Lars (2004) On Turkic transformativizers and nontransformativizers. *Turkic Languages* 8, pp. 180-190.
- Kudaybergenov, S. (1987). Glagol. In Zaxarova, O. V. (ed.) *Grammatika kirgizskogo literaturnogo yazika 1: Fonetika i morfologiya*, pp. 207-294. Frunze: Ilim.
- Mamanov, İbrayım (1966 [2007]). *Qazaq til biliminiñ мәseleleri*. Almatı: Arıs
- Muhamedowa, Raihan (2016). *Kazakh: a comprehensive grammar*. Oxon: Routledge.
- Smith, Carlota (1991). *The parameter of aspect*. Dordrecht: Kluwer.
- Ščerbak, Aleksandr Mixaylovič (1981). *Očerki po sravnitel'noy morfologii tyurkskix yazikov*

(*Glagol*). Leningrad: Nauka.

Tokubek uulu, Bakytbek (2009). *Learn the Kyrgyz Language: Connecting with People and Culture*. Bishkek.

Vendler, Zeno (1967). Verbs and times. In Vendler, Zeno (ed.) *Linguistics in philosophy*, pp. 97-121. Ithaca: Cornell University Press.

アクマタリエフ, ジャクシルク (2017) 『キルギス語・日本語小辞典—動詞編一』 和歌山: 桜町書院.

安達太郎 (1977) 「「なる」による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化学部紀要』第4号, pp.71-84.

鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』東京: むぎ書房.

**The meaning and essence of the Kyrgyz auxiliary verb *kal-*:
Two questions regarding its aspect and cooccurrence restrictions**

OHSAKI, Noriko

(Center for Eurasian Cultural Studies, Graduate School of Letters, Kyoto University)

and

SHAMSHIEVA, Nazgul

(Doctoral Course of Graduate School of Language and Culture, Osaka University)

The Kyrgyz language, which belongs to the North-Western group of Turkic languages, utilizes more than twenty auxiliary verbs to add or modify the meaning of the preceding lexical verbs. This paper explores the nature of the auxiliary verb *kal-* by raising two questions on its aspectual behavior and cooccurrence restrictions.

First, the auxiliary verb *kal-*, originally means ‘to stay, remain’, has been explained as an auxiliary verb of completion in the literature. However, it sometimes expresses inceptive or habitual/repeated action instead of completed action. Examining more than ninety combination of lexical verbs and the auxiliary verb *kal-*, we argue that the distinction between volitional and non-volitional verbs and the lexical aspect of the preceding verbs, especially the durative and punctual aspect, are deeply involved in the aspectual behavior of the auxiliary verb *kal-*.

The other question is on the cooccurrence restrictions of the auxiliary verb *kal-*: It never follows a certain verb, such as *öltür-* ‘to kill’ or *sındır-* ‘to break’. We examine 2,743 verbs, picking up 132 verbs that are never followed by the auxiliary verb *kal-*. Having examined all of those non-cooccurred verbs, four elements in this restriction are proposed: (1) irreparable change of the subject or patient of the action; (2) pragmatic restrictions; (3) causatives of transitive verbs; (4) causatives of intransitive volitional verbs. Although these four elements explain only three-quarters of those 132 non-cooccurred verbs, it is obvious that the volitionality of verbs deeply concerns the behavior of the auxiliary verb *kal-*.

As a conclusion from the examination of the above two questions, the essence of the auxiliary verb *kal-* lies in its property of highlighting only the result of a change and requiring unvolitional maintenance of the change.